



右上/天海の母の実家があった「高田の館」。現在は雷神様が祀られている。



右下/天海僧正護法石
左/会津美里町中央公民館前に建つ天海大僧正の石像



た所が天海の母の実家のあった「高田の館」の跡である。

会津美里町中央公民館の前には、会津高田ライオンズクラブが昭和五十三年（一九七八）に建てた「天海大僧正」の石像が建立されている。

その南側に、「天海僧正護法石」が置かれている。石は二つに重ねてあるが、これは、天海の両親が無事生誕したことの記念に屋敷内に誕生石として置いたものだという。また、天海が日輪を遥拝した石だともいうが、いずれにせよ天海の「護法石」として長く伝えられている。「天一」と陰刻されているというが、はっきりとはわからない。

このように会津高田の郷には天海にまつわる縁や、伝承が多く残っている所で、天海を偲ぶにあさわしい郷でもある。

参考文献

- 『会津高田町史』
- 『天台宗道樹山 龍興寺略縁起』
- 『桜農栞 村中之巻』
- 『新編会津風土記』
- 『会津人群像 第三号』

天海
僧正
異聞

高田文殊院 清龍寺の 文殊像の東叡山遷座

川原 太郎

このたび天海大僧正の特集を組まれるあたり、天海大僧正の偉大さを違った側面から掘り起こす必要を感じて、大僧正遷化の後も、有形無形に影響を与えて居られることを述べてみたい。

さて、高田文殊院清龍寺の本尊である文殊菩薩は、「慈眼ノ誕生ヲ祈リシ靈験ノ仏ナリ」として、元禄十一年（一六九八）十一月に上野の寛永寺に法親王の求めに従い遷座となった。時は天海大僧正遷化（寛永二十年）から五十五年を経過していた。

将にその影響力を感じさせる出来事である。その間様々な問題（代替佛・清龍寺の火災）の時も、寛永寺の対応は、天海大僧正のゆかり故に進んだことは明らかである。

高田文殊院清龍寺山門



文殊院